

# 中毒・環境因子実習

## Practice of Poisoning and Environmental Health

コース責任者

予防医学教授 高田 礼子

### 1. 学習目標

#### 1) 一般目標 (GIO)

健康異常の発現要因として、環境の影響は大きい。医師として、特に産業医にとって環境要因の特性と評価法を理解することの意義は高い。本コースでは、医師として経験することが多い環境要因について、その特性と作業環境の評価法を理解する。そして、生物学的モニタリングについて、ばく露評価ならびに健康リスク評価における意義と測定法を理解する。さらに、有害環境要因の影響を回避するための保護具について、正しい選択と使用法を理解する。またケーススタディを行い、環境要因による健康危機管理の手法を理解する。

これらの実習を通して、環境要因と生体の関係を理解して、健康異常のリスクを管理する知識と技術を理解し体得する。

#### 2) 行動目標 (SBOs)

本コースで扱う環境要因は産業医として経験することが予想される要因を中心に構成している。

- ① じん肺の原因となる粉じんの種類ならびに環境気中の粉じん濃度の測定法を説明できる。
- ② 騒音性難聴の原因となる環境中の騒音レベルの定量的評価法を説明できる。
- ③ 職場環境中の有害化学物質の簡易測定法としての検知管を説明できる。
- ④ 生体ばく露評価法としての生物学的モニタリングの意義と測定法を説明できる。
- ⑤ 粉じん、有害ガス等を防護するための呼吸用保護具の正しい選択と使用法を説明できる。
- ⑥ 生物学的要因としての感染症を予防するための呼吸用保護具の適切な装着ができる。
- ⑦ 環境要因による健康危機管理の手法を説明できる。

### 2. 学習内容

グループに分かれて下記の課題を巡回して実習する。

環境気中の粉じんの測定

呼吸用保護具の正しい選択と使用法

環境中の騒音レベルの測定

検知管の操作と測定

有機溶剤ばく露による生物学的ばく露指標の測定

食中毒の集団発生事例の健康危機管理

詳細については、実習書に記載された課題を行い、課題毎にレポートを作成する。

また、第3学年前期に学習した中毒・環境因子の内容の総復習も行う。

### 3. 成績評価

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
レポート	6	90 (%)	各実習課題についてのレポートを全て提出することが単位修得に必須である。
随時試験	1	10 (%)	実習最終日に確認テストを実施し、評価する。
授業態度			以下の場合に実習成績から減点する。 ① 実習態度に問題がある場合 ② レポート提出について、期日遅れやその他の不備がある場合 ③ 小テストの受験態度に問題がある場合

### 4. 教科書・参考書

教科書・参考書の指定はないが、実習時には別に配付する実習書を必ず持参すること。

### 5. 準備学習

- ① 各課題の実習前に実習書の該当箇所を読んでおくこと。必要に応じて、第3学年の「中毒・環境因子」の実習に関係する講義内容について復習しておくこと。
- ② 各課題の実習後に、指導教員の指示に従ってレポートを作成し、所定の期日までに所定の場所に提出すること。
- ③ 実習最終日の試験前に第3学年の「中毒・環境因子」、「医療と社会」の環境保健と職業性因子の講義内容について復習しておくこと。

### 6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
予防医学 (環境保健、健康増進・疫学)	教授	高田 礼子	月曜日 12時30分～13時30分	医学部本館4階 予防医学教室	3425(内線)